

作成日	2019 年 7 月 5 日
学科・専攻名	発達教育学研究科 教育学専攻

教育課程・学習成果

1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

【現状説明】

教育課程編成・実施の方針のもと、学士課程での学修を基礎として、高度な専門性を身につけることのできる教育課程を体系的に編成している。特に、教育学の各分野において学生の自発的探索能力を高めるために、教育哲学特論、教育行政学特論、比較・国際教育学特論、生涯教育学特論、家庭教育学特論、教科教育学特論などの専門科目を開講しており、講義を中心としたコースワークだけでなく、演習、研究指導、修士論文の指導を通したリサーチワークにより、高度な知識と研究手法を体得しうる教育課程を体系的に編成している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

2018 年までのカリキュラムの成果を検討し、より修士論文に関する指導を充実させるために「教育学演習」、また、高度な専門的職業を担う能力を有した教育分野の専門的職業人の育成のため、「教科教育学特論」を新設した。「教科教育学特論」については、今後さらに指導人材を拡充して内容を向上させることを目指している。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

学士課程で 2019 年度より発足した「特別支援学校教諭養成課程」に関連して、専修免許を取得できる大学院のカリキュラムについて検討する必要がある。学士課程の担当教諭と協議し、多様な方向から専修免許課程について考える検討会議を発足させる。

2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

【現状説明】

シラバスに授業の到達目標、授業計画、評価方法、授業時間外の学習、教科書・参考書の明示、京女 AL 区分などを明記し、主体的に学習するように設定している。大学院の学びへの導入として、毎年新入生の入学後、すべての教員および在学生が集まり履修ガイダンスを行っている。履修指導においては広く且つきめ細やかな助言により、学生は修了に必要な単位を修得している。また、論文作成にあたっては個別指導を行い、論文中間報告会や学会・研究会での発表を通して、リサーチワークによる指導を行っている。なお、大学院生は TA として、授業の準備や後輩の指導補助を行うことで自らの学修到達度の確認と指導スキルの向上を図る制度があり、効果を上げている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

大学院生アンケートの結果から学生の学習・研究環境に課題となっていたため、2018 年度申請により、2019 年度より学生の研究用パソコンの導入を実現した。今後はこの環境を生かして、学生がより自発的に研究に邁進するべく指導を行っていく。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

【現状説明】

教育課程及びその内容、方法の適切性については、大学院専攻会議において、学生からの直接の意見や大学院アンケートの結果から検証している。2018 年度大学院アンケート結果では、カリキュラムや講義内容についての満足度は、おおむね良好であった。

しかし、更なる教育の質向上に向けて、2018 年度に専攻会議にて協議の結果、2019 年度より、新カリキュラムを導入している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

2019 年度大学院生アンケート結果にも表れ、これまでの懸案事項であった大学院生の学習環境の改善を図り、前述のように 2018 年度の申請により学生学習用 PC の導入を実現した。今後もさらに学生の要望に沿って、教育の質の向上を図る所存である。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

教員・教員組織、FD

1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。

【現状説明】

教員組織のバランスについて、60 歳代が全体の約 35%、教授の比率が 87%である。年齢構成に関しては、特に大きな問題がない教員組織と判断できる。また、非常勤講師の比率は低く、2 科目のみが非常勤講師の担当となっている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 学科・専攻独自の FD 活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。

【現状説明】

本専攻では頻繁に専攻会議を開催し、学生の修士論文の研究指導を担当教員だけでなく、時間を設けて全員で行っている。特別に「FD 活動」と称して行う活動は実施していないものの、質向上に資する活動が密に行われていると言ってよい。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

今後、研究交流、勉強会など、「FD 活動」として教員の質向上に関する取り組みを行う。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評）
教育課程編成についての改革が認められ、その結果、研究者養成だけでなく、専門的職業人育成への期待が持てる。同じく修士論文の指導充実についても期待される。今後、特別支援教育にかかわるカリキュラム編成について引き続き検討が望まれる。学生の学習・研究環境の充実についても引き続き取り組むことが期待される。
改善勧告コメント（具体的な改善の指示）

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見